

A photograph of Kathy Jetñil-Kijiner, a woman with long dark curly hair and glasses, wearing a red and black patterned dress. She is holding a microphone and speaking. The background is a stage with a green screen displaying a silhouette of a person and the text "Celebrating Earth Company".

IMPACT HERO 2017 Kathy Jetñil-Kijiner Final Report

Founders' Message



Thank you!!!

気候変動活動家から特命大使へ 3年間の大きな成長

また1人のチェンジメーカーが大きく成長し、羽ばたいていきます。今皆様と共に実現することができた支援とインパクトを振り返り、感謝の気持ちでいっぱいです。

2016年11月、彼女に初めて行った支援は第22回気候変動枠組条約締約国会議（COP22）への参加支援で、COP開催国モロッコで初めて会いました。COPでは、小柄であどけない風貌のキャシーがパワフルに人々の心を動かしていたのが印象的でした。相手が他国の大統領でも、ユース活動家でも態度が少しも変わらず、いつも等身大で裏表なく自分の

見解を率直に表現するキャシーに、多くのユースは憧れ、各国の首脳や気候変動業界の要人たちは大きな期待を寄せていました。しかし、そんなキャシーがあるイベントでその胸の内を語った言葉が、私は未だに忘れられません。

「本当は、母国の気候変動の被害や現状を話す度に胸がえぐられるような思いがします。話すのをやめようと思ったことも何度もあります。でも私にはやめるチョイスはない。やめることは、母国を諦めることから。だから辛くても伝え続けるのです。」イベントの前後は必ず表情が陰るキャシー。その気持ちが少し理解できた気がしました。

その後アメリカが正式にパリ協定離脱を表明し、2018年には「2030年にはマーシャル諸島で居住不可能になる場所が出る可能性があり、人工島の検討も必要」という調査報告が発表されました。この調査結果に彼女は酷く心を痛めました。

しかし2019年10月に再度来日したキャシーは、「大丈夫。もう私は受け入れたから。今は私にできる全てをするだけ」と力強く話していました。たくさんのことを乗り越えてきたんだな、と逞しさを覚えました。彼女は今、マーシャル諸島の気候変動特命大使となり、かつては「若き活動家」として参加したCOPにも「政府代表」として参加しています。彼女が運営す

る団体Jo-Jikumで育成した新たな若き活動家も国際会議などで活躍し始めており、キャシーや彼らの活躍をニュースで目にするたびに、3年間の成長を感じ、感慨深いものがあります。

気候変動は、マーシャルだけでなく地球の問題です。この地球に住む私たち全員の問題です。地球の未来が救われるなら、それは間違いなくキャシーのように諦めることなく戦い続けてくれた人たちのおかげなのです。私たちにできることは、そんな彼らの活動に敬意を払い、応援し続けること。ぜひ一緒に見守り続けていましょう！

共同創設者 濱川明日香・知宏



(COP25に参加したマーシャル諸島代表団)

3年間でEarth Companyが行った支援

5ヶ国78名の皆さまから

1,441万円のご寄付を賜り、

- ① Jo-Jikumの活動拠点設立
- ② 1001万人の目に触れるPR支援
- ③ Jo-Jikumの運営強化戦略策定

の支援を提供することができました！

ユースセンター設立費	424万円
団体運営費	623万円
国連気候変動会議 COP22参加支援費	62万円
キャシー来日 プロジェクト費	160万円
マーケティング支援費	46万円
現地経営コンサル ブートキャンプ費	126万円

① Jo-Jikumユースセンター設立

Jo-Jikumは、マーシャル諸島の若者を「気候変動の犠牲者」から「未来の変革者」へ成長させるため、①環境リーダー育成、②気候変動教育、③国土と共に失われつつある伝統文化を学び直す活動をしています。団体創設からの6年で500名の若者にプログラムを提供しましたが、活動拠点がなかったため、安定的な活動が困難でした。そこで、皆さまからのご支援により活動拠点となる待望のユースセンターを設立し、2019年9月のオープンからの4ヶ

月で、すでに**300名**を超える若者が学んでいます！プログラム以外の時間も、環境意識の高い若者が高校や大学の帰りに集まり、共に宿題をしたり語り合ったり、交流の場にもなっているそうです。Earth Companyと共創した、マーシャル諸島での気候変動の被害について若者が高齢者に取材し、海面上昇による島の変化を動画などデジタルで記録し発信するプログラムも始まり、国内外で大きな影響力を発揮しています！



IMPACT MADE BY YOU

Earth Companyが皆さまと共に3年間で行った支援

② 1001万人の目に触れるPR支援

2016年11月、国連気候変動マラケシュ会議（COP22）への渡航費がなかったキャシーに対し渡航費調達を支援し、2週間の会議中の登壇機会のセットアップや、彼女の活動がよりメディアに取り上げられるようインタビューのとりつけなど、PRコンサルティングを実施。Jo-Jikumの団体リーフレットも制作支援し、彼らの世界に向けた情報発信を支援しました。また、2017年6月には「世界で活躍するキャシーを日本に」という要望にも応え、キャシーの

初来日ツアーを開催。12件のイベントで約700名を動員。朝日新聞や毎日新聞を始めとした6回の取材をアレンジし、キャシーの活動が約1001万人の目に触れるPR支援を実現しました。同年の国際平和映画祭ではキャシーの作品「怪物」を応募し、審査員特別賞を受賞（P18参照）！

そして2018年には、NHK WorldとNHKBSにテレビ出演。英語、日本語と両言語で放送されました！

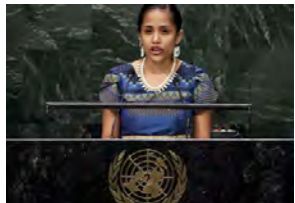
③ Jo-Jikumの経営コンサルティング

キャシー本人からの要望により、創成期にあったJo-Jikumの活動基盤を固め、より効果的な組織運営を実現すべく、2017年3月にマーシャル諸島現地で、4日間のワークショップを開催。Earth CompanyもJo-Jikumの運営陣の一員となり、キャシーと共同創設者のミランと共に組織分析と課題の洗い出し、ビジョン・事業の明確化、年次計画書や財源戦略の策定、リーダーシップコーチングを行い、運営強化のためのコンサルティングを行いました。

それまでは助成金が確保できた時のみ活動を行っていましたが、より安定的に活動を行うため、寄付制度の導入と収益事業としてマーシャル諸島気候変動研修事業の立ち上げをサポートしました。2020年には、Earth Companyと共催で初のツアーを実施します！またIMPACT HEROに選出されて深まった日本との絆を大切にするため、今後も日本での情報発信をサポートするJo-Jikumのジャパンボランティアチームを募集し、発足しました！

IMPACT HERO 2017 -OUR 3 YEARS TOGETHER

IMPACT HERO 2017に
選出



マーシャル諸島で
コンサルティング実施



ファンドレイジング



国際平和映画祭2017
審査員特別賞受賞



ユースセンター
オープン



IMPACT HEROES
DAYに登壇



5周年イベントで来日。

経団連1%クラブの
会合で登壇



4日間のワークショップ
で、キャシーと共に組織分
析を行い、今後の運営強化
戦略を策定。

Jo-Jikumの活動拠点設
立含む支援プロジェクトの
ため、**1,441万円**の支援
が集まりました。

国際平和映画祭にEarth
Companyがキャシーの
「怪物」を応募。審査員
特別賞を受賞！

2017年のファンドレイジ
ングにより設立したJo-
Jikum初の活動拠点とな
るユースセンターがオー
プン！

日本の大手企業に気候変
動の現状をプレゼン。

スタディーツアー
立案

2016.10 2016.11 2017.3 2017.6 2017.7 2017.9 2018.9 2019.9 2019.10 2019.11 2019.12

COP22へ
渡航・PR支援



COP22（気候変動枠組
条約第22回締約国会
議）へ渡航支援。代
表・濱川が同行し、ア
ドバイザリーを提供。

初来日ツアー開催



12日間の滞在で公式イベ
ント「PACIFIC NIGHT」含む
12件のイベントで約700名
を動員。

NHK World、
NHKBSにテレビ出演



2017年の来日で生まれ
たご縁から森美術館主催の
フォーラム登壇のため来
日したキャシーに取材を
アレンジ。日英両言語で
放送されました。

COP25で
小泉環境大臣と会談



10月の来日時に小泉環境
大臣にご紹介し、そのご
縁でCOP25が開催され
たスペインでは2回目の
面会となる二国間会談を
アレンジ。

Message from Kathy



IMPACT HEROに選ばれ 私の人生は変わった

この3年で、私たちの団体は大きく成長しました。Earth Companyは私たちの活動を上手く整理し、戦略的に運営することを教えてくれ、初のスタッフとなるフルタイムのマネージャーを採用し、私たちの団体に、皆の夢であった「拠点」を作ってくれました。団体設立当初は想像すらできなかったことです。そのおかげで、マーシャル諸島で環境意識高い若者を育て、国際的なステージでこの国の存続を訴える活動をより安定的に行うことができています。

Earth Companyは、他団体ではあり得なかった形で支援をしてくれ、誰よりも私たちを信じてくれました。この3年間で教えてもらったことは、一生役立つと確信しています。

彼らの支援は、Jo-jikumの代表として、変革者として、そして人間として私を成長させてくれました。この支援を可能にしてくださった皆さんに、感謝してもしきれません。本当にありがとうございました！

Kathy Jetñil-Kijiner



Story of a Jo-jikum youth leader



Carlon Zackhras
マーシャル短期大学1年生
(18歳)

COP25ではグレタさんと共に記者会見

マーシャル諸島第2の島で、米軍基地の島イバイ出身のカルロンは、高校在学時の気候変動に関する発表が評価され、マーシャル政府から選ばれ2019年にNYで開催された国連のユース気候サミットやCOP25で登壇。COP25ではグレタ・トゥーンベリさんと共に記者会見に。キャシーがメンタリングとアドバイスを丁寧に行った記者会見での彼のスピーチは、朝日新聞のネットニュースでも取り上げられました。発信力と実行力を兼ね揃えるカルロンは、今後はJo-jikumの運営にも関わる予定です。

Story of a Jo-jikum youth leader



Bryant Zebedy
マーシャル諸島海洋資源局勤務
(24歳)

海外で島のユースを代表する存在に！

母国の未来を不安に思っていたブライアンは、その原因の気候変動問題について学び、若い世代を率いるリーダーとして行動を起こしたいと思い、Jo-jikumの次世代リーダー育成プログラムに応募。見事選ばれ初代Earth Championに。プログラム卒業後、元々リーダーシップのある彼は、島で積極的に気候変動キャンペーンを行い、One Young WorldやCOPなど数々の国際会議で登壇。Jo-jikumのプログラムでスピーチ力を磨いた彼の力強いメッセージは、国内外で多くの人の心を動かしています。



Story of a Jo-jikum youth leader



Carsia Alik
ミス・マーシャル諸島
NGOコミュニティオフィサー
(19歳)

ミス・マーシャルとして影響力大！

核実験の影響で居住不可能となった島の出身で、ミス・マーシャルとなったカルシアは、島の気候変動の影響を取材し記録するプログラムに参加。国のユースを代表して国際会議へ参加する経験を通じて視野が広がり、ビデオブログの配信を開始。若者に注目される彼女が気候変動問題を発信することで、国内の若者の意識を高めています。また現在は、Jo-JikumのパートナーNGOのスタッフとして、若年妊娠予防の活動にも従事。プログラムで学んだ経験や得た人脈が、今の仕事にも活かされています。

Story of a Jo-jikum youth leader



Cansecho Copra Carmel
マーシャル諸島短期大学
コミュニティアウトリーチ担当
(21歳)

島の若者を育てる地域のリーダーに成長

Jo-jikumの次世代リーダー育成「Earth Champion」プログラムに参加したカンセチョは、気候変動のメカニズム、次世代リーダーに必要な能力や知識、自治体を巻き込んだ環境プロジェクト運営や助成金申請などを実践を通して習得。国際会議に出て海外で国の存続を訴えるのではなく、島の中で若者のエンパワメントに注力し、ボトムアップで国の変革に貢献することを選び、プログラム終了後もJo-jikumの活動リーダーとして運営に関わり続けています。

これからのチャレンジ

Kathy Jetñil-Kijiner

Earth Companyと支援者の皆さまは、私やJo-Jikumのために、たくさんのエネルギーと情熱を注いでくれました。おかげでこの3年間で、私たちの組織と活動と体制を、大きく強化することができました。拠点もできたJo-Jikumは、今までより遥かに多くの若者たちを巻き込み、エンパワーできています。今年は新たに、首都がある島の若者が離島の若者から文化や伝統の暮らしについて学ぶプログラムも開始できそうです。

そして私は実は、3月からオーストラリア国立大学の博士課程に進学します。今後、国を代表して国際会議で他国と気候変動に関する交渉を行っていくのに必要なスキルと知識を得るためです。アーティストとしての活動は少し休むことになりますが、マーシャル諸島にしながら、遠隔で就学できるので、気候変動特命大使としての役割や、Jo-Jikumの運営を続けながら学ぶことができます。

これから私たちマーシャル人は、ますます厳しい現実を突きつけられますが、水没の危機から故郷を守るために全力を尽くします。皆さんとEarth Companyが作ってくれたこの基盤と繋がりを維持し、活動を継続そして進化し続けられるよう、精一杯努力していきます。

皆さまにもマーシャル諸島を知っていただきたく、スタディツアーを開催します。その際は、ぜひいらしてください。そしてユースセンターを訪れ、この島に古来から伝わる物語をお伝えさせてください。気候変動というとてもない人類最大の課題ですが、だからこそ、一緒に闘い続けましょう。これからも、Jo-Jikumの応援をよろしくお願いします。

How to support Jo-Jikum

今後の支援方法

キャシーやマーシャル諸島の若者たちの活動は、以下の方法でご支援いただけます。今後もキャシー、そしてJo-Jikumをよろしくお願いいたします。

① Facebookで活動を
フォローする



facebook.com/jojikum/

② Jo-Jikumに
寄付をする



earthcompany.info/ja/onetime/

*Earth Companyのサイトからご寄付いただけます。
メッセージ欄に「キャシーへの寄付」と明記ください。

③ Jo-Jikumの
メルマガを購読する



eepurl.com/gT1lij

Kathy's Poetry Highlights

この3年のキャッシュの代表作

「怪物」 2017年8月発表

日本人の曾祖父を持つキャッシュは、マーシャル諸島が経験した核実験の悲劇を共有できる被爆国の日本に特別な思いを感じている。この作品は2017年の初来日ツアーの際に、キャッシュの強い希望で広島を訪れ、原爆ドームの前でEarth Companyが撮影。同年9月に開催された国際平和映画祭に推薦し、審査員特別賞を受賞。審査員からも「キャッシュの詩に心が震えた。詩人には社会を変えるためのムーブメントを起こす力がある」と高い評価を得た。



「怪物」
bit.do/monster_hiroshima



「Anointed」 2018年4月発表

2017年にノーベル平和賞を受賞し、現在100ヵ国以上468団体が参加する「核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN)」から依頼され制作した作品。この作品では、核実験場となり、放射性物質が埋め立てであるエニウェトク環礁ルニット島のドームを訪れ、核実験によって人々の命や健康だけでなく、何千年も受け継がれてきた豊かな文化も失われてしまったことを訴えた。気候変動により島が水没し、再び移住を強いられれば、マーシャル諸島は再び文化を失ってしまう。その悲劇が気候変動によって繰り返されることがないように願うキャッシュの悲痛の思いがこもった作品。



「Anointed」
bit.do/Anointed



「Rise ~島から島へ」 2018年9月発表

地球温暖化の解決を目指す国際NGO「350.org」が展開する気候ムーブメントの一環としてキャッシュが制作した作品。溶けゆく氷河と上昇する海面という気候変動の影響を受ける2つの島の現状を、キャッシュとグリーンランドの詩人アカ・ニワイアナが共作の詩で訴え、英国大手メディア「The Guardian」でも紹介された。撮影はグリーンランドとマーシャル諸島で行われ、気候変動の危機に晒される2つの島の豊かな自然と、それぞれの島に伝わる伝承を交えながら、経済発展のみを追い求めるのではなく、あらゆる生命と環境に敬意を払うことを訴えた作品は見る人の魂を揺さぶる。



「Rise ~島から島へ」
bit.do/RFOITA





IMPACT HERO 2017
Kathy Jetñil-Kijiner

Final Report

2020年2月発行

一般社団法人Earth Company
東京都港区南青山2-15-5 FARO 1F / Tel 03-6753-1558